



教育委員会より

「多久から発信！SDGs」

「腰鼓を次の代へ」

東京厚生西溪校 6年1組

貝通丸 煌
遠田 結菜

私たちが通う西溪校では、5年生と6年生で腰鼓をします。腰鼓は、その名の通り、腰に鼓をつけて踊るもので、多久市に多久聖廟があるという縁から、釈菜で踊られるようになりました。今から約1,500年前に中国で踊られました。腰鼓の演技の種類は約10種類程度あり、それを自由に組み合わせることが出来ます。今使われている鼓は、趙国良氏より寄贈されたもので、今でも受け継がれています。

私たちが5年生の頃は「どうして腰鼓をしなくてはいけないの」「人に見られるのが恥ずかしい」と思っていました。教えてもらっているときも、見られるのが嫌だなどという気持ちが強かったです。でも、6年生になった今は、腰鼓をすることが楽しいし、次の5年生にも引き継いでほしいという気持ちに変わりました。それは、腰鼓が何年もの前から途絶えずにずっと引き継がれて続けていることを知り、西溪校だけが受け継いでいる文化を誇りに思うようになったからです。そして、腰鼓を通して、伝統を受け継いでいく大切さを感じました。これからも、腰鼓が続いてほしいと思います。



連載

野の仏ギャラリー ⑤

西国三十三所観音

南多久町妙覚寺

西国は東国に対応する言葉で、西国三十三所は近畿及び隣接県にある巡礼地です。この観音霊場を勧請した写し各地に設置されました。当所では境内にあります。



写真中央の高い位置如意輪観音1体、前段左右に各6体、中段左右に各5体、後段左右に各5体、合計33体が確認できます。石仏はすべて敷加子上の蓮華座に安置されています。石仏の半数は崩落し、尊顔の原形を保つのはわずか6体程度です。像容を推定できる石仏は、千手観音12体(うち1体は三面千手)、如意輪観音5体、聖(正)観音2体の計19体です。しかし、各石仏には比類のない造形が見られます。

※正徳三年は西暦1713年です
多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆「本能寺」吟詠聴きつつの世も
愚かな心が歴史を刻む
浦野 嘉恵

◆抑揚をつけて朗読する曾孫
行末見たき思いふとせり
川浪 信子

◆「間引き菜」を新米と食べるおいしさは
この時期だけの一品料理
梶原恵美子

◆あなたから愛をもらったありがとう
再び僕は歩き始める
野崎 隆幸

◆戦争を物質のごとく扱える
各国代表の会議もどかし
尾形 節子

◆訪ねれば庭にこぼるる金木犀
武富 律子

◆冬紅葉 山野に色を足しにけり
おおやはな
本村 則子

◆秋風に紙飛行機の距離のぼす
中嶋 清子

◆秋の日の一人一人のものがたり
富樫 明美

◆平凡な一日でありぬ秋茜

◆部下を皆雑巾にする管理職
西山 残月

◆おんもへと妻の手欲しい車椅子
田代えみ子

◆一人居も秋は平等もみじ舞う
井上 東子

◆長居客背もたれなしの椅子が出る
大谷 和

◆せつせつせつと金を動かす椅子がある
田代まつこ

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

川柳 《多久川柳会 互選》